平成 30 年 3 月定例記者会見及び 2 月月例記者会見

会見記録

【 説 明 】

〔平成 30 年度予算〕

副市長 まず、最初でございますけれども、生駒市議会第 1 回定例会の上程案件でございますが、議案の件数は 36 件でございます。予算案件が 11 件、当初予算が 8 件、補正予算が 3 件でございます。条例案件としては 20 件、新規が 3 件、改正が 17 件となっております。市道路線の認定廃止が 2 件、人事案件として 2 件、生駒市教育長の任命。病院事業推進委員の委嘱、以上 2 件でございます。諮問案件としては 1 件で人権擁護委員候補者の推薦について意見を求めることとして、2 名の候補者について意見を求めます。

平成 30 年度の予算でございますが、こちらは平成 30 年度の予算案の概要で説明をさせていただきます。一般会計の予算額といたしまして、357 億 8,300 万円ということで、対前年度増減額が 10 億 3,100 万円のマイナスでございます。それから一般会計と特別会計の予算額としては 600 億 8,704 万円ということで 33 億 6,331 万円の減。企業会計を含めた全体の全会計総額といたしまして 652 億 6,726 万円ということで 34 億 4,159 万円の減ということでございます。

税収につきましては、市税は減少をしたものの、地方消費税の交付金など県税交付金の増ということで前年度から 2.8 億円の増ということでございます。地方交付税は対前年度 1.4 億円の減。国庫支出金につきましても、認定こども園や私立保育所の整備交付金の減によりまして対前年度比 2 億 9,000 万円の減。繰入金につきましては財政調整基金は取り崩さないで他の基金からの繰入れを調整したことによって対前年度比 2 億 3,000 万円の減ということでございます。

歳出につきましては、社会保障関係費は実績をベースに厳しく見積もりを出させていただきました。一般財源ベースで前年度予算から約 1,000 万円の増に抑えたということでございます。それから学研高山地区第 2 工区の用地取得などで 3 億 7,000 万円、中学校のエアコン整備の設計やトイレの洋式化の設計で 3,000 万円、小・中学校の ICT 教育の充実で 9,000 万円を計上いたしております。なお、保育所の整備補助・学童保育施設の整備などで対前年度比 6 億 6,000 万円の減ということで、前年度と比較すると一般会計の予算規模としては 10 億 3,000 万円の減ということでございます。厳しい財政状況の中で予算編成にあつては、徹底した歳出の削減を行って予算の重点化・効率化を図ったわけでございます。「締まった予算」ということにさせていただいております。

主な事業、それから施策につきましては、学校・幼稚園のトイレ洋式化改修、学童保育施設の整備、ICT 機器の活用教育、中学校のエアコンの整備設計、仮称生駒北学校給食センターの整備運営、生駒市学校教育のあり方検討委員会の開催、就園前の子育て支援に対するワークショップの開催など子育て・教育施策の充実が入っております。

医療・福祉・健康施策の充実ということで、子ども医療費の助成、介護予防・日常生活支援総合事業、

交通費助成、新たに在宅医療介護連携に係る相談窓口の設置などを入れております。

省エネ・環境施策の推進ということで、従来どおりでございますけれども太陽光発電システムや家庭用燃料電池など自然エネルギーの活用補助、それから国際都市間協力プロジェクトの費用、それから循環型社会形成推進地域計画の策定や、ごみ減量市民会議の実践活動といったようなものが入っております。

道路・都市基盤整備の推進では、学研高山第二工区のまちづくりといたしまして、この30年度で用地の取得費・測量登記業務等を入れております。それから道路路面性状等の調査ということで道路路面の調査を実施いたしますとともに、橋梁の定期点検等を実施します。空き家対策といたしまして空き家の対策計画の策定費、流通促進支援費などを入れております。それから、鉄道駅のバリアフリーの整備補助も入っております。

消防・防災体制の充実ということで、消防用の緊急車両の更新、消防本部の附属棟の耐震改築工事の費用等が入っております。

最後は生涯学習・文化・スポーツ・その他施策の支援・推進といたしまして、IKOMAサマーセミナーの開催や、ビブリオバトル全国大会の開催、それから子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」の運営、第6次総合計画の策定などが入っております。

次に主要施策の一覧で説明をさせていただきます。

まず、シティプロモーションの推進として、いこまち親子写真部を新たに設置いたします。それから、PRサイトをリニューアルいたします。人権の尊重の所では人権文化センターの別館を大規模改修をいたします。第6次総合計画策定業務を入れております。

「子育てしやすく、だれもが成長できるまち」への取り組みということで、就園前の子育て支援に対するワークショップを開催。学校教育の充実費として、学校・幼稚園トイレ改修事業と、ICT機器活用教育の充実ということで普通教室に大型ディスプレイを配置する予定でございます。それから、奈良高専との協定による連携事業をいたします。

中学校のエアコン整備に向けましての工事設計をさせていただきます。生駒市学校教育のあり方検討委員会につきまして、今後の学校教育のあり方を調査検討すると書いておりますが、これにつきましては後の所でまた説明させていただきたいと思っております。仮称生駒北学校給食センター整備運営事業設計モニタリング支援等業務ということで、平成31年秋のオープンに向けて給食センターの事業に入っております。

空き家対策事業といたしまして生駒市空家等対策計画を策定いたします。空き家の流通促進の支援業務としてプラットフォームを作った形でその支援をしていきたいと考えております。交通ネットワーク整備の所でございますが、路面性状調査及び道路付帯施設等の位置データ整備業務といたしまして、舗装の損傷度を評価する路面性状調査や、ガードレールや標識等の道路付属物調査を実施いたします。この路面性状調査は機械を使って調査をすることになっています。

国際都市間協力（IUC）プロジェクトといたしまして、イタリアのアンコーナ市とペアを組んで、課題解決に向けた連携をいたします。4月にアンコーナ市から職員が来られます。10月に生駒市からアンコーナ市へ職員を派遣いたします。31年度にはアクションプランを両市で作成したいという風に考えております。生活環境の整備の所でございますが、歩きたばこ及び路上喫煙の防止に関する条例施行に伴う啓発活動ということで、禁止区域を指定いたします。これにつきましても、後で説明があるかと思

います。それから上水道地理情報システム更新業務ということで、現在GISを使ってシステムがあるわけですが、このサーバーをクラウド化するということでございます。中央監視制御設備の更新事業ということで山崎と真弓浄水場の設備を更新をいたします。

在宅医療介護連携に係る相談窓口運営事業といたしまして、在宅医療介護連携に係る相談窓口を設置するというので、この業務についてはメディカルセンターに委託をしたいと思っております。主には専門家向けの相談ということでございます。若年性認知症・本人ミーティングの開催。後期高齢者医療保険料のコンビニ収納がまだでしたので、出来るようになるということでございます。障がい者の生活を支えるサービスの実施という所につきましては、地域生活支援事業。精神障がい者のためのピアサポート研修会の実施ということで、当事者を支えるというそういう研修会を実施していきたいということでございます。

人にやさしい都市環境の整備の所。鉄道駅のバリアフリー整備の補助を入れております。これにつきましては、生駒線の菜畑駅と東山駅のエレベーター設置の整備補助でございます。

働き方改革の推進ということで新しくサロネーゼカフェ（創業者支援交流会）を開催し、イコマドを使って創業支援の交流会あるいは意見交換会を実施するというのでございます。その下、中小企業販路拡大出展事業補助金ということで、今まで中小企業の展示会の補助というのはあまりしていなかったのですが、展示会に対して出展費の2分の1で30万円になるということで市から補助をする制度でございます。

主要施策の一覧といたしましては以上でございます。

【補正予算】

副市長 補正予算につきましては、一般会計、後期高齢者医療特別会計、下水道事業特別会計でございますが、一般会計におきましては補正予算としてはゼロということです。歳入の組み換え分。下水道事業特別会計も同じく歳入の組み換えということでございます。後期高齢者医療特別会計の分が補正予算1,000万円ということでございます。

【生駒市学校教育のあり方検討委員会条例】

副市長 条例案件といたしまして20件ということでございますが、議案第20号生駒市学校教育のあり方検討委員会の条例の制定につきましては、生駒市の教育大綱を踏まえて市立学校における教育の質の向上と、学校及び教職員への支援の検討、その他学校教育のあり方を調査・検討するというので、委員会を設置するものでございます。

調査審議の事項といたしましては学校における教育の質の向上に関する事項、教職員への支援、効率的な学校運営、小中一貫教育に関する事項、学校の規模とか通学区域・配置の適正化に関する事項といったことでございます。組織としては15人以内ということで、学識経験者、自治会、保護者を代表する者、学校の長、その他教育委員会が必要と認める者ということで任期を2年といたしております。

【生駒市介護保険条例の一部を改正する条例】

副市長 次でございますが、議案第25号生駒市介護保険条例の一部を改正する条例の制定につきましては、平成30年度から32年度までの第7期生駒市介護保険事業計画の策定に伴いまして、第1号被保

険者（65歳以上）の平成30年度から32年度の介護保険料を制定するものでございます。現行13段階だったものを14段階に変更いたします。月額保険料の基準額につきましては第6期が4,759円。これを第7期で5,200円とするということでございます。施行日は平成30年4月1日でございます。

〔生駒市教育長の任命〕

副市長 それから、人事案件でございます。人事案件としては生駒市教育長の任命ということで、現教育長の中田好昭氏を2期目として上程させていただいております。任期は平成30年4月1日から平成33年3月31日までということでございます。

3月議会の上程案件につきましては以上でございます。

【質疑応答】

〔予算総括〕

記者 来年度予算案の総額なんですけど、一般会計。こちらは規模で言うと例えば最大とか最小とか過去何番目に低いとか、そういったものはありますでしょうか。ここ10年で一番低いとか大きいとか。

市担当者 確認します。

副市長 この事案についてはまた後でお答えさせていただきます。基本的には一般会計予算としても10億円の減ということで緊縮型ということなんです。これは、やはりこれから生駒市のいろんな設備関係で、生駒市が昭和50年代に規模が大きくなって人口が増えてまいりまして、それに伴う施設をかなりたくさん造ってきております。これらの改修とかをする時期に入ってまいりますので、それと社会保障関係費がどんどん上がってきているというような事も含めまして、こういった予算にさせていただいたということなんです。

市担当者 目安としましては予算案の概要の17ページが一般会計予算と市税予算の推移があります。

副市長 最近で言うと平成26年度よりもちょっと低いくらいですかね。

記者 市税の方がちょっと減収だと思うんですけど、どの辺りが。12ページを拝見していると軒並み落ちて見えるのですが、どの辺りが主な原因なのでしょう。

市担当者 大きな所で言いますと固定資産税が落ちていると思います。固定資産税は3年に一度の評価替えの年に当たります。特に家屋の評価で減収している部分が多い部分かと思っております。

記者 市税のところ、個人市民税・法人市民税、奈良県とか奈良市の方ですと好景気とかを反映してどちらも増額だったんですけども、生駒市を拝見しているとどちらも落ちているというところで、どういった影響があったか、どういう原因が考えられますか。

市担当者 個人市民税に関しましては、ふるさと納税で外に出てる影響が考えられます。生駒市民の方が生駒市外へ寄付されてる影響で。

記者 ふるさと納税の影響は大きいですか。ダメージが。なるほど。法人市民税の方は何か分析はありますか。

市担当者 法人関係は大規模な法人というのが影響を受けますので、生駒市内の法人の状況といたしますのが。

〔ICT機器活用教育の充実〕

記者 学校教育の充実のところではICT機器活用教育の充実というのがあると思うのですが、この学校というのは小中ともに、ということでしょうか。

副市長 小中ともにです。

記者 普通教室に大型ディスプレイの配置というのは各教室に1台ずつ置くようなイメージになりますか。

副市長 はい、そうですね。

市担当者 大きさは60インチのディスプレイを各教室に配置します。台数としては250台程度を予定しています。

記者 小・中一挙にやってしまうという事ですね。

副市長 教育委員会とも色々話をしたのですが大型ディスプレイが一番使いやすいということで、大型ディスプレイということでさせていただきました。

記者 来年度中に、そのディスプレイを使って授業が始まるということのようなことですか。

副市長 そうですね。小学校1・2年はもう入ってました。それで全部。

〔学校教育のあり方検討委員会〕

記者 教育関連でお伺いしたいのですが、「あり方の検討委員会」なんですが、これは任期2年ということで委員会が行われるということですがけれども学校を減らすとか適正化とか統廃合も踏まえた上で、何らかの結論を出すという。

副市長 今の現段階で、そこまで統廃合するとかということは、まだ決まっておるわけではございません。そういうことも調査審議事項としては入っているということです。

記者 今は人口減少に伴ってとか。

副市長 そうですね。

記者 このあいだ、大和郡山市でも同じようなものを立ち上げるという話だったのですが、国がこういうものを作るように言ってるのですか。

副市長 はい、そうですね。

〔高山第二工区〕

記者 高山第二工区なんですけども、用地取得というのはURの土地の取得費ですか。

副市長 そうですね。3割相当分のお金は契約時に払っております。残り7割のお金を今回平成30年度で計上しております。

記者 URの土地は30年度で取得が完了？

副市長 完了するという事ですね。今回その費用とあと調査費を合わせて入れております。

記者 残りの個別の地権者というのは今後という事になるのですか。

副市長 残りの地権者の土地を生駒市が買うということは今現在考えておりません。

記者 買わない。

副市長 はい。約1100人ぐらいの地権者がいらっしゃいます。あの中の土地を今後どうしていくかということは検討してまいりますけど、それで生駒市が買うというような考え方というのは、どこかでそういうことはあるか分かりませんが、現時点でその土地を生駒市が積極的に買っていくという予定はな

いです。事業を一緒に構築して事業化を図っていってもらおうということなので。

記者 協力してもらおうということ。

副市長 はい。

【説明】

〔A Iに代替不可能な仕事を！生駒市職員募集〕

副市長 まず最初、A Iに代替不可能な仕事を！生駒市の職員を募集します。平成31年4月1日採用予定ということでございます。前の方に貼っておりますが同じものが一番頭にでております。

広報広聴課長 チラシも付けさせていただいております。今回チラシは両面になっております。

副市長 AI can't do, but I can. ということで、例年このチラシはいつも苦勞して職員に考えてもらってるんですけど、今回こういうチラシということでございます。

人工知能とロボットに仕事を奪われる「A I失業」という言葉さえ出現する中で、高いコミュニケーション能力で市民と協働してクリエイティブな政策立案で地方創生を牽引する職員の採用をということで、こういうチラシにしているということでございます。

受験の申込期間が4月1日から4月11日までということで、事務職を20名程度、それから土木職・建築職で5名程度ということでございます。試験日は4月24日から5月6日ということで総合能力試験としてはS P I 3での試験実施、合格発表がそれぞれ1次・2次・3次・4次まで行いまして最終7月下旬ということですよ。

3月17日にたけまるホールで職員採用試験説明会をいたします。この中で市長の講演も入っております。

本市の採用広報といたしましては、ここにもありますような事でございます。毎回、S P I 3の導入や採用日程の早期化、それから面接重視の採用方式への移行ということで5年連続で応募者数が1,000人を超えております。日経グローバルで公表されました自治体正職員の応募倍率については関西で1位、全国で8位にランクインしております。この件につきましては、そういうことでございます。どうぞ、よろしく願いをいたします。

広報広聴課長 本件につきましては、職員採用の活動自体が3月1日からというルールがあるので、解禁日を設定させていただいております。3月1日の朝刊からということでよろしくお願い申し上げます。

〔ふるさと納税をリニューアル〕

副市長 続いて、「ふるさと納税」をリニューアルということでございます。「ふるさと納税」本来の趣旨に戻り、使い道や返礼品を改革するというところでございます。リニューアルのポイントといたしましては、寄附金の使い道「まちへの恩返し」につながる具体的9事業を設定いたしております。①生駒の音楽祭をみんなで創ろうコース、②「暮らす価値のあるまち生駒」を発信&体感コース、③生駒のシンボル・生駒山をナラ枯れから守れコース、④イノシシ突進を防いで地産地消拡大コース⑤殺処分ゼロを目指す猫愛護コース、⑥災害があれば、いつでも出動 消防自動車購入コース、⑦スポーツを通じた感動体験応援コース、⑧絵本や遊具を充実！いこまっこ成長サポートコース、⑨贅沢だと切り捨てないで！小中学校エアコン設置コースの9つの具体的事業を設定いたしております。

あと、公募等による返礼品の追加といたしまして、1月16日から2月13日までの間で返礼品の提供事業者を公募いたしました。応募者数としては4社、返礼品数は7種類で、全て本年4月から登録となります。内容については、コーヒー味とハーブ味の嫌煙飴、抹茶菓子で抹茶を使ったロールケーキ、素材にこだわったプリン、有名ホテルでも採用されているパイなどがございます。

返礼品を通じて、ふるさとの「親御さんへの恩返し」をしたいという方のために、実家の家事をシルバー人材センターが定期的に支援して親御さんたちの近況をお知らせする「ぬくもり家事支援サービス」を充実いたしております。30年度でもサービスの充実として理美容に行くことが困難な方を対象に訪問理美容を追加いたしております。

その次が、特色ある返礼品の追加ということで、本市指定管理者の㈱モンベルの災害時の1次避難用品、テント・アウトドア用品など12品、それから社会福祉法人青葉仁会のカレーなどのレトルト食品や冷凍食品、有限会社アライが生駒のレインボーラムネにちなんで、レインボーマカロンやレインボーストールなどレインボーをキーワードに生駒のまちをPRする返礼品を追加いたしております。

レインボーラムネにつきましても、夏に再開予定ということでございます。

参考として、この後ろにありますように平成29年度の実績でございます。寄附件数が3,649件、寄附額が60,250,151円でございます。相変わらず、幻のレインボーラムネがやはり人気ということでございます。

その後ろに入れたのが、先程少し説明しました寄附の使い道の内容を書いております。今回9件に市長にお任せコースを入れて10件ということでございます。それから別紙2といたしまして、4月から新たに追加する返礼品、先程説明しました新たな返礼品を入れておりますので見ておいていただきたいと思っております。

【テーマは「家族愛」「地域愛」 市民つながる No.1 映画上映会】

副市長 テーマは「家族愛」「地域愛」市民がつながる No.1 映画上映会ということでございます。生駒市としては3月11日と17日の2日間で「市民がつながる No.1 映画上映会と意見交換会」を開催いたします。

昨年の11月から12月にかけて、この上映会・意見交換会の企画団体を募集いたしました。2団体からの提案がございまして、1月にプレゼン大会を開催した結果、そのプレゼン大会での参加者70名の満場一致で両団体とも上映するということが決定いたしました。3月11日につきましては「蘇れ生命の力～小児科医 真弓定夫～」& 歯科医師の梅津貴陽さんとの意見交換会ということでございます。2つ目が3月17日に行います「さとにきたらええやん」& 重江良樹監督との意見交換会ということでございます。2つともコミュニティセンター文化ホールでございます。定員は271名、費用は無料で入場整理券がいるということでございます。詳細は別紙開催チラシということで、その後ろのページに出ております。3月11日の分は「蘇れ生命の力」ということでございます。2つ目が「さとにきたらええやん」、これは、なら国際映画祭の企画でございます。以上です。

【吹奏樂があふれる1日 第1回いこま吹奏樂の日を開催】

副市長 それから4つ目でございます。♪吹奏樂があふれる1日♪第1回いこま吹奏樂の日を開催いたします、ということでございます。これにつきましては、3月4日午後1時からたけまるホールの大ホ

ールで開催をいたします。中学校 8 校 7 団体、高等学校 2 校、小学校 4 校、それに加えて生駒市民吹奏楽団 3 チームでございます。最後に合同演奏もでございます。合わせて「0 才から楽しめるファミリーコンサート」を午前中 11 時から 11 時 45 分に同じ所で開催をいたします。参加費は無料でございます。

【防災分野のプロフェッショナル 危機管理監を採用】

副市長 最後に 5 つ目でございます。防災分野のプロフェッショナルとして危機管理監の採用ということでございます。

生駒市では、南海トラフ巨大地震をはじめとする地震災害や台風による土砂災害など、大規模災害に対する備えを強化するために災害派遣あるいは現場経験で大規模災害の経験の豊富な専門的な知識・経験を有する防災分野のプロフェッショナルを採用したいと考えておりました。今回、危機管理監として、そういった方を採用したということでございます。

採用するポストは危機管理監 1 名、採用する者としては前職が自衛隊の方ということでございます。採用年月日は平成 30 年 4 月 1 日から任期は 3 年間ということでございます。職務内容は「災害対応にあたる職員の指揮監督及び総合調整」「災害に備え、日頃より自衛隊をはじめとする防災関係機関との連携を強化」「災害対応マニュアルの見直し」などをする予定でございます。

【 質疑応答 】

【 予算総括 】

記者 市長がおいでになったので、来年度の当初予算案について、一般会計を 3 案どのような気持ちの予算案か、あえて名付けるとすれば。

市長 予算額が今年度と比べて 10 億円あまり絞るといふようなことでございますけれども、中身につきましては特に、今年商工会議所で色々申し上げたように、未来に向けてしっかりと住宅都市として、プラス次の発展の芽を出していくような、その一つはいろんなしっかりと収益を上げていくといふか、そういうふうなことも申し上げました。財政状況を鑑みて予算額自体は 10 億円以上絞りこんでおりますが、事業内容を見ていただければ、将来の生駒の発展につながる種を蒔いているものがたくさんあるといふふうに、ご理解いただけるのではないかと思います。「生駒の未来に向けた種まき予算」とでも。

記者 拝見すると、教育分野・医療介護分野等に結構意欲的なのといふか新規施策を多くと思うのですが、市長の案をお気持ちとしてはどういった分野に特に重点的に今回されたとお考えでしょうか。

市長 先程申し上げたように、一つは今まで就任して以来ずっと市民協働ということで、私も町になるべくたくさん出て、市民のいろんな活動を応援していくといふようなことを、どんどんやってきたといふそんな 3 年間だったと思うのですが、それに加えて、生駒市の市民の活動も活発になってきて、音楽祭とかそういう所で成果も相当出てきたのではないかと思います。そちらの方もしっかりとこれからはやっていくといふことは前提なのですが、プラス、生駒市の 10 年とか 20 年を見た時にももちろん高山第二工区の話もありますし、あとは先程も申し上げたように如何に生駒市といふのは単なる住宅都市でなくて、しっかりと今後も財政上経済上回っていくといふ町になるかといふことが、これからの課題になっていくと思います。固定資産税とか住民税で得られる収入といふのは、やはりどうしても大きく伸びることはないですし、減少傾向になっていくといふことは避けられませんので、それ以外に新たな産業であるとか、どう収益を確保して生駒市の市政、市民活動が停滞しないようにするかといふのが

非常に大きな課題ですので、そういうようなものをしっかりと考えていく中で、一つは高山第二工区の話であるとか、生駒市民パワー、あとは空き家対策なんかも生駒市内のいわゆる不動産関係の資産というものがしっかりとより資産性が高まるというような意味では空き家対策もその中に入ってくると思いますけれども、しっかりと生駒市が将来に向けて経済的、また財政的にしっかりと回っていく、将来持続可能な形で発展していくそういうふうな種まきをしたいというのが一つです。

もう一つは、今ご指摘がございましたように、まさに教育、あと福祉。まずは定住人口をしっかりと確保するというか、生駒市に住んでおられる方が生駒市に住み続けたいと思っていただくことが何よりの最優先事項だと思ってまして、そのために市民協働というようなことをずっとやってきました。医療関係、高齢者福祉そういうようなところは引き続きしっかりとやっていきますし、職員からも色々なアイデア・提案が出てきてますので、そこはしっかりとやっていくということでもあります。

あとは、定住人口をしっかりと確保した上で、生駒市に引っ越したいなと思う方が一番何を気にしているかと言うとやはり教育だと我々は思ってますし、子育てはもちろんそうなのですが、待機児童も生駒市はまだゼロになっておりませんが、教育分野で如何に子どもたちが生駒市だったら良い形でどんどん成長できるか。前に採用のポスターが貼ってありますけど、生駒市はしっかりと教育委員会でもAIに負けない子をどうやったら育つかみたいなことを本気で考えてる自治体なんて、あんまり無いと思いますけど…そんな事を考えてますし、それがどういうふう実践できるかというのも相当大変ですけどやっています。なので、そういう面でそういう意識を持ちながら、教育で一足・二足先の事を考えていくことで、学力テストだけじゃなくて生駒市で子どもを育てたいな、教育を受けさせたいなと思ってもらえるような世帯が生駒に来るのではないかというふうに思っています。

未来の種まきというのがありますけど、やはり子育て、あとは福祉の分野というのは定住促進と移住促進の両方の面から住宅都市という側面が生駒市はこれからも一番大きな幹ですので、そこは新たなことはどんどんやっていきたいということでもあります。

記者 予算の柱を上位3位くらい、どの分野になりますか？教育・介護・医療とか。

市長 教育と高齢者を中心とする福祉というのがそこに入ってくるのは間違いないと思います。教育と福祉ですね。福祉も高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉といろいろありますので、全部大切だと思ってますけど、高齢者福祉が占める割合が大きいのですが、教育と福祉は確実に入ってくると思います。

あと、もう1個をどういうかと言うと、ちょっと一言で言いにくいですけど、さっき言ったような将来の種をまくということで。その中の一番大きな柱は高山第二工区だと思いますけど。いこま市民パワーとか。行革とか市政運営ってどちらかと言うと世知辛いコストカットの方ばかりにどうしても目が向きがちなんです。我々も財政課と総務部と一緒に削れる所は削るということもやってきたのですが、プラス将来の種まきとかきっちり収益が上がってくる分野をどう育てるかというようなことで、高山第二工区の開発、いこま市民パワーをどう育てていくかというような事とか、空き家対策とか。ふるさと納税の話も今日ありましたけど、ふるさと納税だけではなくて、生駒市にも高額納税してくださる方がいらっしやいます。図書室の木田さんもそうですし、毎年ご寄附いただいている方もおられて、やはりふるさと納税もあくまで一つのやり方であって、生駒に住んでおられる方が生駒市のために将来、例えば自分の持っておられるお金を寄附したいという方は今でもおられますし、福岡市の事例だと救急車36台あるうちの12台は寄附でまかなっているという報道もありましたけど、そういうふうに町づくりを丁寧この3年間、市民協働でやってきた中で、非常に町の事を考えてくださる市民の方がたくさんい

るなあということも分かりました。実際に思いだけではなくて行動に移してくださる方もおられます。引き続き、ふるさと納税もそうですし、何か市民のためにということでご寄附いただくような方がおられれば、そういう方のご意向も汲んで町づくりもしていきたいと思います。そこまでは出来ないけど、例えばいこま市民パワーと契約しようかと言ってもらったりもします。まだ31年度からしか一般家庭は供給できませんけども。何か自分のやり方で生駒市のために何か行動しようという方がこれからも出てきていただければありがたいと思いますし、そういう受け皿はきちっと作っていききたいと思います。

【ふるさと納税をリニューアル】

記者 ふるさと納税の件ですけど、アピールする、リニューアルするポイントは全部が前回から変わったということなんですか。新しく9事業したりですか、返礼品ですか、全部新しくなったポイントでよろしいのでしょうか。

市長 抜本的には去年結構変えてるのですが、例えば寄附金の使い道であっても、寄附金の使い方をしっかりと説明することでご寄附をたくさんいただこうと、去年そういうふうに変えたところがありますけど、去年の項目と比べても今年は入れ替えた物もありますし、新規に追加した物もありますし、なのでそういう意味ではその中身も変わっているというのが一つ目であります。

(1)の返礼品の追加でこれも去年だいたい返礼品というのを充実させたんですけども、去年の動向等も踏まえて、また今年も変えてるということ、大きな考え方自体は去年変えたところに則ってはいるのですが、中身のところでちょっとずつ変わっています。返礼品も変わっています。

二つ目の(2)の「親御さんへの恩返し」というのも、やっぱり我々のメインターゲットというのは正にふるさと納税なのだから、生駒出身の方が東京とかに住んでおられて、地元に残してきた親御さんとか卒業した学校とか生駒の山とか、そういうものに対して何か寄附で恩返しをいただくというのが、やっぱり一番基本だろうというふうに思っています。その中の一つのポイントとして親御さんがこちらにおられるけど子どもさんが東京とか海外とかそういう所で活躍されてるという方が結構生駒には多いので、では親への恩返しというところに関しても去年シルバー人材センターの家事サービスなんかも導入しましたけども、その内容も充実をさせたり、生きいきクーポンの方でも少しメニューにも入っておりますけど、美容室に行くのが大変だという方はご自宅に訪問して理容・美容サービスが出来るということなんかも今回入れてるということではメニューの充実はしております。

2の(1)は公募によってこういう返礼品を募集するというのは今年初めてやって、この30年度から反映するというものです。大きな1番と2の(2)と(3)というのは去年と同じことではありますけど、中身のメニューはだいたい充実させていただいたということでございます。

記者 ふるさと納税の実績の面で伺いたいのですが、先程財政課の方がおっしゃった市民税の減収の要因としてふるさと納税を挙げられてたと思うのですが、今年度どれくらい生駒市に入って、どれくらい生駒市から出ていったかという内訳は分かりますでしょうか。

市担当者 決算、平成28年度になります。申し上げますと、28年度の寄附額が約6,890万円、歳出の方、これは記念品代でありますとかその辺の費用ですが2,280万円。市民税の控除額、生駒市民の方がどこかに寄附をされた減税分が1億2,100万円。差し引きいたしますと-7,500万円くらいになります。ここの1枚目の所にも書かせていただいておりますけども、29年度は市税が約2億円の減収となりますということで、29年度と言いますのは29年度課税分ということで、先程の28年度というのは、収入は

28 年度に収入した分で市民税控除した分は 28 年度課税分という形になります。

記者 1 億 2,100 万円というのは昨年度。

市担当者 28 年度の市民税課税の中で減額となった分です。

記者 2 億円というのは今年度 29 年度の課税。

市担当者 29 年度の課税分です

市長 1 億 2,100 万円が今年度は約 2 億円くらいに大体なるのではないかという推計ということです。

記者 約 8,000 万円増えていて痛いと思うのですが、市長はこれをどのように対策というか、やられていくおつもりでしょうか。

市長 トータルで見るとマイナスになっているので、正直辛いところではあります。ただ、ふるさと納税という制度自体を全て否定するつもりもありません。

これ自体は一つのやり方かなと思いますが、一つは我々も今日説明申し上げたようないろいろなリニューアルをしまして前より納得のいく形でふるさと納税いただく方を増やしていくということが当然一つかと思います。あとは、実際に他の所にふるさと納税されるということは 2 億円の減収になってるんですよということは、もう少しきちんと PR しないといけないと思っていて、こういうのを結構遠慮して市民に言わないのですが、そんな必要はなくて他の自治体にふるさと納税するのは構いませんけど、それは実際生駒市にとって 2 億円の減収になってそれは市政に影響、約 350 億とかの一般財政規模の生駒市で 2 億円出てるんですよというふうに言うのは、それは課税課なりから逆 PR で、そういうインパクトはあるというのはちゃんと理解しといてねという、止めるという権限は我々にはないので、そういう事なんですよと。だから我々はちょっと今年あんまり実績は正直上がらなくて反省する点も多いんですけども、基本的には生駒市から出て行って東京とかに住んでおられる方からもっと納税をいただくというような事をしっかりやっていきたいなと思いますし、本来ならそういうものだったと思うんですけど今はそういう事になってなくて、どこかの商品が良さそうだから、返礼品が良さそうだからということとでどんどんふるさと納税が進んでるところはあると思うんですが、我々としてもきちんとふるさと納税の本旨の部分、一番大切な部分をしっかりと PR しながら、とはいえふるさと納税していただく額をもう少し増やしていかないと厳しいなと、あと市民に対してこの 2 億円減収になってますという事はもっと広報とかできちんと PR しないといけないなと、この場をお借りして言っておきたいと思います。ちょっと財政課と課税課で考えて何かまた、それだけ 2 億円減ってますよというだけの PR でないとは思いますが、やっぱり増える分とか今回のリニューアルの分とかもきちんと説明をしながらこういう状況ですよというの言わないといけないかなというふうに考えています。

記者 何がこの額になってる要因と思われますか。

市長 寄附が結構色々担当課も頑張ってくれて、色々市内の事業者さんのご協力も得て、今年ちょっと減りましたが 6,000 万円台の額はいただいているので、そこはもちろん増やしていきたいとは思いますが、一定額ご寄附をいただいているなど評価はしています。ただやはりふるさと納税はお得だという風潮が広がっている中で、あんまりふるさと納税の本来の主旨というものを考えずにどんどん他の自治体に寄付してしまうというようなことは多分全国的にあると思うんですけども、さっき申し上げたようにふるさと納税の仕組み、単に他の自治体の美味しそうなお肉を買えば安く手に入るということではなくて、そうすることというのは生駒市民がそうすれば税収の減収にもなるんですよというようなことは改めてしっかりとお伝えしないといけないなとは思っています。

〔路上喫煙禁止区域の指定〕

記者 路上喫煙の件なんですけど、禁止区域の指定となっておりますが。

広報広聴課長 3月15日に議会の委員会の方で説明できるような準備を進めてるところでございます。それに合わせて記者の皆さんにはリリースなり何らかの方法でお伝えはしていきたいと思えます。

市長 議会もあるんですけど、やっぱり路上喫煙の禁止区域を設定する時にいろんな関係の地域の自治会さんとか、いろんな団体さんとかに説明しないとイケない。今日ちょっとご説明するのにぎりぎり間に合わなかった感じです。まとめ次第で。

記者 エリアを決めて、そこは変わらない。

市長 それはもちろん条例で決まっています。その範囲をどうするかということです。

〔防災分野のプロフェッショナル 危機管理監を採用〕

記者 危機管理監は生駒にゆかりのある人。どこの出身の方。

副市長 生駒にゆかりはないです。

記者 どこの方。

副市長 お住まいは宇治市です。

記者 宇治市在住で、現職は何ですか。

副市長 現職が陸上自衛隊員です。

市担当者 今は最終的には統合幕僚幹部。

記者 組織の正式名は何。詳しくないの。

市担当者 組織が統合幕僚幹部で。

記者 この上には何も付かない。

副市長 付かない。

市担当者 そこまでもらってないので、調べます

記者 プロフェッショナルだから呼ぶのであって、そんな人が良く分からないじゃ意味ない。生駒市主導でやってる話ではない。

副市長 生駒市主導です。

記者 でしょ。だけど自衛隊から派遣されてるわけではないでしょ。

市担当者 階級は2等陸佐です。

記者 何とか課長とか、何とか部長とか付かない。今、現職で何をされてるんですか。

副市長 現在は統合幕僚監部の運用部というところです。

記者 運用部の何とか課長。

副市長 いえ、課長とかではないです。行政事業レビュー担当、有識者事業評価、自衛隊の情報業務に関する企画調整運営対財務省説明に含む予算要求情報公開請求対応という事のそういう対応をさせていただきます。平成28年度の熊本地震それから29年度の北部九州豪雨災害の際の官邸危機対策センターにおいて防衛省の連絡要員として勤務ということです。

記者 肩書きの方は。

副市長 肩書きはそういう部長とか課長とかいう方ではないんです。

記者 肩書きは無いんですか。この澤井さんは。

副市長 今現在はそういうことですね。

記者 分からないんですけど、統合幕僚監部という組織は54歳ということで肩書きのない職があるんですか。

副市長 よく分かりません。

記者 分からないと困るんです。大事な人を採用、生駒市の防災のトップを採用するのに肩書きも分からない人を採用するのは、おかしくないですか。変な質問してるわけではないですよ。記事を書く上において、どういう肩書きの人かっていう根本的な情報が。

市長 きちんと整理して。

記者 さっき、まさにおっしゃったように下の所の職務内容も大事なんだけど、そういう経験の評価して採用・就任してほしいということでしょうから、その辺の澤井さんの業績についてもちょっと知りたい。ペーパーでください。

副市長 分かりました。

記者 それで、何で生駒市が独自に澤井さんを採用するのか。来るべき南海トラフ地震に備えてですか。

市長 先程の資料の職務内容の中にも書いてますが、自衛隊との連携とか防災訓練とかでもやってるんですけども、やはり直接その自衛隊に出勤要請をしないといけないようなそういう事態というのも当然大地震のときはあり得ますし、そういう意味で自衛隊とのより強固な関係構築というのがやはり自衛隊から来ていただくというところの一番大きな目的としてはあります。

あと、去年の台風なんかの時に非常に大きな課題として出てきたのが一番下に書いてますが、災害発生時における情報発信力でありますとか、あとは日ごろからどのような形で災害に対応していくのかというようなこと、情報発信の面でも非常に大きな課題も出てきましたし、そういうところをもう一度外部の人の目を入れてきちんと見直しておかないと、大きな災害があって災害対策本部を立ち上げるたびに何か課題が出てきますので、そういうのを一度きちんとやらないといけないだろうということで、来ていただくというところ。自衛隊との関係強化と情報発信を中心とした災害への備えです。そういうところを目的としています。

記者 つまり、自衛隊を辞めるってということですね。

市長 そうです。

記者 31日付で辞める。

副市長 そうですね。

市長 何日付で辞める。

副市長 何日付で辞めるか分かりませんが、4月1日付で入っていただく。

記者 市役所側から何かアナウンスしたんですか？こういう人材募集したいんですけど、と。それとも何らかのパイプで澤井さんが良い人材がいるなっていう。個人的にお声がけしたんですか。

副市長 基本的に自衛隊の中で公募させてもらいました。市の方から公募してそれに応募していただいたという方です。

記者 自衛隊側に、自衛隊の組織の中に危機管理監という人材を募集したんですか。

副市長 一応2名応募されて面接をして、その中でこの方ということで決めさせていただいた。防災

マネージャーの資格を有した人ということで。

記者 理解が乏しい所があって、自衛隊というと防衛という分野が最初にイメージしてて、それはそれでいいんです。ただ、災害をやってる人なんですか。主に。何故なら市役所にそういう自衛隊の方が赴任するっていうことにちょっと違和感があって、今までに聞いた事がないので。そういう防災を主に担当してることってよくある、警察の方が市役所にお就きになることよくあるから、それは専門的で良いとは思うんです。

市長 自衛隊から自治体に結構来られてる方というのは奈良市でもありますし、奈良県でもあります。事例は結構あります。実際に五條市で水害がありました時に奈良市に来られて本当に間もない自衛隊の方が五條市に派遣されて五條市でそのメディア対応も含めて、非常に上手に。ちょうど私はその時に副市長に就任してすぐだったんですけど、五條市に行って市長からいろいろ話を聞いたり、その時にその奈良市の自衛隊から来られた方のご活躍なんかも聞いたりして、生駒市でも一回来ていただいたりしたんですけど。研修で。もちろん自衛隊の方全員が防災のプロフェッショナルかと言うと、そうではないでしょうが、今回来られる方は災害関係のところにも関係したこともありますし、情報関係は非常にお詳しい方です。

記者 確かに、間にいると自衛隊を知らない人が自衛隊にお願いしますというのは心理的なハードルもあるし、そういう意味ではいいとは思うんです。要は、市の大事な役職に来る人の経歴とか肩書きが中途半端だというのは、やっぱりよろしくないです。

市長 きちんと整理してまた説明します。

副市長 最終の場合の肩書きというのは、何々課長とかいう肩書きではないと思うんですけど、今までの経歴の中の肩書きは説明した。

記者 現在 54 歳の澤井さんが、自衛隊の組織内は分からないから、その辺はちゃんとやってください。今は分からないとかではなくて。

副市長 自衛隊の場合は、一応、二等陸佐の場合には 55 歳定年なんです。55 歳定年で、定年間際ということでひょっとしたら課長とかいう役職でないかも知れないので、だからこういう書き方になっているかもしれませんので、ここは確認します。

記者 やっぱり、大事な役割だから。

市長 後で、整理してやってください。

(了)